

番組審議委員会議事録

松竹ブロードキャスティング株式会社

- 1.開催年月日 平成 26 年 7 月 18 日（金）12：00～13：00
- 2.開催場所 銀座東武ホテル
- 3.委員の出席 委員総数 9 名
出席委員数 6 名（品田雄吉、田中康義、堀江ミエ子、
松本淳、松本行央、太田博）
欠席委員数 3 名（小山観翁、伊藤信太郎、坂田藤十郎）
- 4.放送事業者側出席 5 名（井田寛[代表取締役社長]、山崎克己[監査役]、
藤本弘之[取締役・編成担当]、鵜澤由紀[編成部長]、
松野俊一[編成課長]）
- 5.議事の概要
- ・ 経営報告
 - ・ 衛星劇場の現状報告
 - ・ ホームドラマチャンネルの現状報告
 - ・ 質疑応答

6.議事内容

○経営報告

- ・ ホームドラマチャンネルのキャラクターを作成（グッズのボールペンを配布）。
営業、宣伝活動に使って行きたい。
- ・ 昨年度の報告としては、2013 年度の売上は、予算よりやや下回る結果となったが、経常利益はプラスになった。
- ・ 経営環境は厳しい状況が続いているが、今期の 5 月までの数字としては、衛星劇場では目標の予算達成率 95%、ホームドラマチャンネルが目標の 98%の達成率となった。
- ・ 柱の 1 つである韓国ドラマが、昨年ほどの大きな動きはないが、ほぼ予算達成に近づいているのではないかと。

- ・製作出資作品としては「白ゆき姫殺人事件」「超高速！参勤交代」に出資し、目標に近い数字に達している。
- ・新しい試みとして始めたワークショップから映画製作へ。最近の商売先行の映画ではなく、監督が作りたい作品をお手伝いしていく。映画好きな人に向けて発信していく。その第1弾沖田修一監督の「滝を見にいく」が完成し、秋の公開を控えている。

○衛星劇場チャンネル

- ・映画、舞台、韓流の3本柱を軸に放送。S級の韓国ドラマ（その人が出ているだけで視聴率が上がり、加入につながるようなドラマ）を年に4本ぐらいは放送していくことで、加入につなげたい。
- ・また新たなジャンルとして放送を始めたバラエティやミュージカルは好評。バラエティの放送を始めたことは、今まで専門チャンネルでしかやっていなかったのもそれしか見てこなかったファンに、衛星劇場ではドラマなど他の韓国のもを放送していることも認知してもらえたことが大きい。韓国ミュージカルも加入きっかけの理由にも入っているので、今後も編成していきたい。
- ・「男はつらいよ」は8月で第1作放送から45周年となるため、第1作から放送を再開する。また「私の寅さんSP」も佐藤蛾次郎さんを迎えた番組を製作。今後の編成としては、「男はつらいよ」のような名作や公開記念に絡め、新旧作品を補うことで幅広い層の視聴者に見てもらえるような編成を目指している。
- ・歌舞伎の放送では、歌舞伎座でのこけら落とし公演だけではなく、明治座での花形歌舞伎など、他会場における歌舞伎公演も放送。
- ・8月からは狂言の世界も特集。以前単発で放送した野村萬斎さんが加入動機に上がってきたので、半年に渡り放送をしていく。野村萬斎さんの舞台生活80周年、野村萬斎さん襲名20周年として、お二人の出演した演目を放送。
- ・その他、落語、舞台なども選りすぐりの演目を引き続き編成。

○ホームドラマチャンネル

- ・韓国ドラマ、時代劇、国内ドラマの3本柱で編成。韓国ドラマでは、イルイドラマが好調。視聴率アップの要因になっている。J:COMの視聴率を見ても、昨年は平均0.37%だった視聴率が、今年の3月から5月で、順位も7位から2位、視聴率も0.61%まで上がってきた。昨年末のタイムテーブルの見直しも効いてきている。
- ・時代劇は、松竹の鬼平、必殺、剣客だけではなく、ユニオン映画の作品でSDしかなかったものをHD化した伝七捕物帳、新五捕物帳、銭形平次を編成。

これも少しずつ認知され、視聴率も上がり始めている。

- ・国内ドラマは、映画公開に合わせ、出演者の過去の作品を放送。しばらく他のチャンネルでも放送していないものは、一定の視聴率が稼げている。
- ・夏の一挙放送は、その時期は視聴率が上がるが、終わるとどっと視聴率が下がっていたので今年はやらず、朝の連続テレビ小説の総集編を 5 作品編成。どういう結果が出るか、期待。
- ・3 本柱以外でも、台湾ドラマや、韓国バラエティも編成。俳優のイメージの強い藤原竜也の初バラエティ番組も素の部分が見えるということで、好評を得ている。

○質疑応答

Q：イルイルドラマとはどういうものですか？

A：イルイルは日々とか毎日という意味で、韓国で毎日やっているドラマのこと。日本で言えば、朝の連続テレビ小説のような作品に近いイメージ。

Q：ホームページは外注か？ちょっと遅れ気味で、魅力なく感じる。紙面で見るとよりもホームページを見る人は多いので、疎かにできないところでは？内容の充実を期待している。

A：専門の業者に発注している。内容に関しては古い情報がいつまでも出ているようなことがないように、改正していく。

Q：衛星放送協会のオリジナル番組には、出品しないのか？

A：昨日第 4 回の授賞式があり、各作品が決まった。衛星劇場としては、過去に「伊藤大輔監督特集番組 甦るフィルム～時代劇の父と幻の映画の旅路～」で審査員特別賞を受賞している。しかし、時間とお金を要するところもあるので、継続して作って行くのはなかなか難しい。

Q：来年松竹 120 周年だが、具体的には何か企画があるのか？松竹が考えることだが、もしできるのであれば大谷図書館が所蔵している伊藤大輔監督の第 1 作目の「酒中日記」という幻の映画がある。つなぎ合わせると 30 分くらいの作品になると思うが、それを復元して放送するようなことは出来ないだろうか？

A：松竹の企画を元に衛星劇場での企画を進める予定だが、そういう作品があるなら、松竹にも相談し復元できるように進めたい。もしダメなら、うちの独自の企画として進めていきたい。

以上